

NIE全国大会

論説



題 宇横山
(若狭高) 筆
カッタ・神内 八重

県内のNIE(教育に新聞を)新規実践指定校の担当教諭らが集った「全国大会東京大会」の視聴会で、作家真山仁さんは新聞の役割を知らないことを知り、疑問を持つきっかけになることと指摘した。会員制交流サイト(SNS)が普及するなか、課題を見つけ、解決する力を育むNIEの一層の浸透を期待したい。

講演した。若者が新聞記事を読まずに、SNSで自分の価値判断を追認してもらい、安心感を得ている現状を指摘した。

参加教諭からは、県内でも似たような状況にあるとの声があった。「SNSで追認してくれるものだけを読む」というのはまさにその通りだと思った」との感想は、NIE実践指定校だけでなく、教育現場全体で認識すべきだ。

SNSの弊害としてよく指摘されるのは、似たような価値観ばかりに触れることと、考えが偏ってしまう点だ。他者を受け入れられなくなり、多様な考えが持てなくなるのではとの懸念もある。

新聞は紙面を広げると次々と見出しが目にとまる「一覧性」がある。自分の好きな情報だけでなく、さまざまなニュースを知ることができる。大切なニュースは、目にとまるように大きな見出しで扱い、反対意見も載せてバランスを取る。「多様な考えを知り、根拠を持って自分の考えを述べること」を重視する今の教

新聞を「疑問」持つ契機に

育に、新聞が必要とされるゆえんだ。真山さんは「批判にのっかるのではなく、事実をベースにしないと意見は言えない」とも強調した。批判する学生に、事実を問うと「知らない」とこたえ、事実を教え、間違いを指摘すると、簡単に非難を引込める。知らないことを知ることなく、価値観を同じくするSNSの論調に安易に賛同する現状に危機感を隠さなかった。

一方で、視聴会の参加教員からは新聞、ラジオ、テレビ、ネットとメディアの特性を知る大切さも指摘された。GIGAスクール構想で児童生徒一人一人に端末が配備され、デジタル社会は加速する。「子どもたち」にメディアの特性を考えさせ、情報を受け取る側のしかりとした心構えが大切」との意見に賛同したい。長所や短所を把握して確かさを見極めるリテラシーを高めていく必要があるだろう。

真山さんの講演は2月28日まで日本新聞協会ホームページで視聴できる。教育現場で新聞の必要性が高まるなか、新聞の役割や特性を知るきっかけにしてほしい。

2020.12.19